

令和3年度 江戸川区立平井南小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	体をきたえ 心をひろいて みずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	児童、教職員、地域にとって行きやすい学校 自ら学び、友達と仲良く、目標をもって最後まで努力し、元気に生活しようとする児童 敬愛され、信頼される・熱意をもって、自己研鑽に励む・専門職としての自信と誇りをもつ教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>1年生からの算数習熟度別指導の充実や補習教室の導入により東京ベシーツドリル診断シートの定着率が全学年向上した。図書館についてスーパーバイザーの指導を受け児童が学習しやすい環境を整備できた。全学級で授業規律の徹底が図られた。 <課題>配慮を要する児童が増加し、日頃の指導の充実を目指して特別支援教育の推進をする。新しい生活様式の中で、縦割り活動の充実を図る。今できることを生かして体力の向上を目指す。習熟に時間がかかる児童の指導の充実を図る。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	授業観察一年3回 若手教員研修一年30回 補習教室一年150回 教員間の情報交換一年3回 児童生徒交流一年2回	国学力調査一年度成長5p 東京ベシーツドリル診断シート…平均正答率70% 作文交流…児童満足100% 中学校児童参観一年1回	A	B	補習教室が計画的に行われている。講師と担任の情報共有も積極的に行っている。小中の交流内容が限られている。Eライブラリの活用が進んでいる。東京ベシーツドリル診断シートの定着率が向上している。	A	感染症対応で学習について手探りの部分があった。後半に活かしてほしい。	基礎学力の定着について根気よく取組を進める。Eライブラリの活用をさらに進めていく。
	読書の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書ノート活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	読書ノート活用資料データ共有(OPaD) 図書館スーパーバイザー一年2回 図書貸出数…1人平均20冊 2回派遣、図書館研修年2回 SSSIによる図書館整備…毎日	読書ノートを活用した資料収集とまとめ一年2回 図書貸出数…1人平均20冊	B	B	SSSの活用により、図書館整備が進んでいる。読書科研修を2回行い、各学級で実践している。読書科ノートの活用をさらに広げる必要がある。図書館を活用した学習をいろいろな教科で行っている。	A	ステイホームにより本を読む機会が増えている。図書貸出し数の数値目標を目指してほしい。	図書館スーパーバイザーを講師に招き、読書科の活動を振り返り研修を行う。各学級に配付した読書科ノートを今後の単元に活かす。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	全校運動遊び一年35回 中休み外遊び奨励	中休み外遊びする児童…90%	A	A	中休みに外遊びをすすめる児童は80%以上である。全校運動遊びでなわとび遊びを中心にしている。マスクをはずして遊ぶことに不安を感じている児童への対応が必要である。中休みの外遊びが苦みになっていそうな児童が見られた。	A	2つの校庭を活かしている。高学年と低学年の遊び場を分けられていることがよい。	全教員の声を徹底する。体育的行委員長と低学年の遊び場を分ける。感染予防の対応をしながら思いやり運動できる環境を整える。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	アスリートとの交流及び掲示一年1回 Eライブラリの資料活用含む体育朝会一年5回	都体力テスト意識調査…運動好き肯定的評価90%	B	B	オリパラコーナーの交流したアスロートの情報掲示が充実している。体育朝会でパラリンピックについて全校で学習した。	A	観戦はできなかったが、児童にオリパラの感動は伝わっていると思う。	オリンピック、パラリンピックで得たものをさらに加えてオリパラコーナーの掲示の充実をする。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	教育実践実践推進委員会参加及び研究発表 ALTとの業間交流	全国学力調査意識調査…外国語肯定評価80%	B	B	休み時間に児童とALTの交流ができていて、ALTと事前の打ち合わせが十分できている。	A	中学に向けた教育が必要。保護者の求めるものと小学校の外国語教育のねらいとがみ合っているか検討が必要である。	ALTとの交流の場を設ける。3学期に地区研究校の発表を参観する。都の意識調査を行う。
特別支援教育の充実	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめ対策委員会及び情報交換…毎週金曜日 いじめ・不登校研修…学期1回 SCとの情報共有…年38回	児童の不登校…0人 保護者アンケート…いじめ対応…肯定的評価80%	B	B	毎週金曜日の情報交換が効果的に行われている。保健室登校、別室対応などの工夫をしている。SCと都巡回心理士との連携もとれるようにした。単級もあり児童の人間関係が固定化しがらである。	A	前年度までのいじめ・不登校についての指摘に対応している結果だと思われる。	いじめ対策委員会を中心としたいじめ対応研修をさらに行う。児童の不登校0に向けて全教職員の対応確認、SC全員面接の結果を活かす。
	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	校内委員会…年5回及び随時 ユニバーサルデザインに基づく教材、教具の開発及び共有…月1回 水曜日 エンカレッジルーム…不登校対応副籍交流(手紙交換)…月1回	保護者アンケート…教育相談肯定的評価80%	A	B	校内委員会の検討内容の情報共有をさらに図る必要がある。巡回指導の教材(ゲーム等)を開発している。月1回の教材教具の共有がまだ十分には行われていない。	A	感染症対応しながら最大限の努力を続けてほしい。	副籍交流は間断交流であるが、学校だよりの交換だけでなく、手紙の交換を学期に1回実施する。レベル1の手立てを検討していく。
	校内研究の推進	・在籍学級と特別支援教室の指導の連携 ・在籍学級での要配慮児童への指導の工夫	校内研究会一年4回 都巡回心理士との情報交換一年10回	特別支援情報を各学級で実践、ふり返り一年7回	B	B	研究授業をこれから始めるにあたり全職員で授業研究し活用できるようにする。担任と巡回指導教員との連携をする時間を確保している。	A	感染症対応しながら最大限の努力を続けてほしい。	外部講師を招き、研究について指導・助言をいただき改善を図る。連携の在り方を明確にしている。
	特別支援教育の周知	・巡回指導拠点校として担当地域、保護者への情報発信の活性化	おおきり通信…年5回 理解教育(5年生)…年1回	保護者アンケート…情報発信肯定的評価80%	A	B	おおきり通信を2回発行。巡回指導を受けている児童がいる学級といずれも学級の理解の差を埋めていく必要がある。	A	巡回指導について保護者の認知度が高まっていると思われる。	全校に配付する内容のおおきり通信を発行していく。校内研究で理解教育を取り上げ全教員で協議する。
	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	ICT支援員によるICT研修一年4回	オンラインで学校とやり取りができる児童…90%	B	B	ICT支援員の研修内容を年間指導計画に沿って行っていく必要がある。ICT支援により児童のPCスキルが向上している。低学年への指導内容を見直す必要がある。巡回指導教員が参加できるときにICT研修を行う必要がある。	A	オンラインで学校とやり取りができる児童100%を目指してほしい。	ICT支援員の授業支援を計画的に活用する。学校公開のオンライン配信を続けていき保護者もPC操作に慣れるようにする。実践に基づきオンラインの学校ルールを作成する。
教員の資質向上	授業力の向上	・若手教員研修 ・指導教員による授業支援 ・小教研の各部研究との連携	指導教員の授業参観一年30回 指導教員授業参観OJT実施 小教研の各部研究との連携…10月	保護者アンケート…授業の分かりやすさ肯定的評価80%	A	B	OJTが積極的に行われている。KUI小教研体育部授業の準備を全教職員で行っている。	A	若手の先生方の授業力の向上に期待している。	指導教員だけでなく学校全体で若手教員の指導をし合う環境を醸成していく。
	服務規律の徹底	・服務事故防止研修 ・服務情報共有	服務事故防止研修一年1回 校務PCによる服務情報共有…随時	服務事故…0	A	A	服務事故及び不適切な指導が0である。服務事故が起きない職場風土が醸成されている。さらに服務の厳正に努める。	A	引き続き、最大限の努力をされるよう努めていただきたい。	引き続き研修に努め、専任教員で相互に確認していく。
	地域の人材と環境を生かした学習活動	・旧中川の自然の活用	生活科、理科、総合的な学習での活用	各学年5、6時間学習	A	B	クラブ活動でも旧中川を題材として活用する。1、2年生生活科、3、4年生理科、5年生総合で平井のまち自慢の学習を行った。	A	大切な学びの場であるので感染症対応をしながらできる限りの実施、継続を願う。	6年生は今後旧中川の灯ろう流しと歴史の学習をする。
特色ある教育の展開	子どものよさや可能性をひきたす縦割り活動	・ふれあい班活動の活性化	全校遠足1回、集会活動4回、特別活動及び各教科で随時	振り返りによる児童の満足度…80%	A	A	全校遠足で上学年の児童と下学年の児童積極的に交流していた。日常的に6年生と1年生が交流できるようにした。	A	大切な学びの場であるので感染症対応をしながらできる限りの実施、継続を願う。	10月にふれあい集会。2月に6年生を送る会で感染予防対応をしながら縦割り班活動を工夫して行う。
	本物の芸術やスポーツ等に触れる体験活動	・山形交響楽団、パーカッションアンサンブル、浮世絵、絵画、アスリート招聘	山形交響楽団1学期、パーカッションアンサンブル、浮世絵本紙風船体験2学期、アスリート3学期	振り返りによる児童の満足度…80%	A	A	山形交響楽団を招き生きのオーケストラ演奏を鑑賞することができた。	A	感染症対応の状況下で学校として最大限の努力をしていると考える。	引き続き感染予防対応をしながら本物に触れる体験を企画する。